



大隈重信殿閣下  
侯爵

押川方義

此書不ノ事ト在存ハ百同民  
 参伺任ハ吊ハ以合シノ上  
 可也以慰メ星キ可外下ハ  
 川島ト云ヒ石本ト云ヒ皆  
 子ノ方治ニ於テハ異ハん度アリト  
 多比其精神ニ於テ一ツニシテ  
 畢竟日本國家ノ大策ヲ案出  
 シ北方ノ大國防ニ資センカ否  
 ノ計畫ミシテ亦夕川島ハ極ニ  
 トヨク肅王ハ清朝僭倭ノ忠  
 魂ニ甚ク思念シテ計畫ハ  
 理由如何ナルコトアリトモ此ノ  
 際時機ヲ過ラシシカ考メ  
 滿蒙獨立ノ空ヲ異ナルコト能  
 ハルコトモリレハ意恨骨髄ニ至  
 シルハ身ヲ以テ彼ノ地任ニ置テハ  
 洵ニ同情、憐レハル決事ニ  
 多ク多端ノ折柄ニハハル共  
 滿蒙ノ件一 庚辰其ノヨロレ  
 キラ得ガレハ敵意ニ對シテ政  
 府政教ノ為メ厲強ナル物者  
 ヲフルコトト抑ルルヲ洵ニ遠  
 懐ノ極ニニ以重んズ 侯爵ノ  
 政策ヲ重レズルト同時ニ  
 ノ現狀ニ鑑ミ成ルベク最善  
 ノ法ヲ尽クシ解決ノ道ヲ得  
 度ク甚慮焉云々 己ニ用  
 政初ヨリノ決定案ヲ案氏  
 ニ能ラサ撥帶率運致スニク  
 其ノ日ノ一白モ早カラシラ大  
 任ハ 川島、石本兩氏ノ關係  
 子頃ニ致シハ關係ノ上絶シ  
 言上仕ルベク存存ハ一其今同  
 石本テレシ出意セシメハニ甘  
 同氏若重ノ上ハ伊ノ不群  
 諂ウ類ヒテ中存存ハ 百其ノ  
 昂ノ以存存迄ニ 何止上友  
 也也 留書  
 大正五年 八月五日 押川方義

